



大空へ翔び立て風ん子

津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(78)3111代
印刷所 旭印刷
電話(水俣)34101番



天蚕

津奈木町長 六車孝吉

蜂蜜の四項目が書かれています。昨年の年男だから所感を書けと通知がありましたが、特にありません。年男の野蚕について書いてみます。数年前上京の折、銀座のデパートで古書展示即売会がありましたので、特用林産加工と云う本を購入、三浦伊八郎・原敬造両氏の共著です。この本の第九章は動物生産物で、作蚕・樟蚕・テグス・

昭和七年度調査による作蚕の年産額は五百七十六萬粒、一萬五千円、殆んど長野県産出です。二番目の樟蚕も長野県で、六十一萬

二千粒(七千九百三十円)と記載してあります。十数年前から津奈木では養蚕が途絶えましたが、近年ハイブリッド絹の開発、家蚕・野蚕の人工飼料に関する研究開発が進んで、桑がなくても蚕が育つところまで進歩しています。日本原産の大型野蚕である天蚕(テンサン)の飼育が近頃増加して、二五都県、一〇八市町村(一九八九年)に及んでいます。一般にヤマユ或はヤマコと云います。天蚕の和名はヤマユガです。天蚕は緑色の美しい繭をつくり、これからとった絹糸は素晴らしく、家蚕絹の数十倍の値で取引されます。津奈木でも遅延ながら天蚕飼育に取り組み人がいます。天蚕の主産

▼この四月から小学校で、日の丸と国歌が、その「孤」を脱ぐ。子供たちは何処にでも通用する「徳」を身につける。「徳ハ孤ナラズ必ズ隣リアリ」と論語に云う。道徳は孤独であることはいない。きっと同類を周辺にもつ、という意味であらう。大人の生活にもジワジワと込み込んでくる筈である。

▼相手の居ないお屠蘇の酔いをさますべく、眼鏡橋下流の川べりから、鯉や家鴨に餌をやって「徳」を振り撒き、雑煮の餅腹をこなすために重盤岩に登ってみませんか「津奈木」が見えますよ。

一言

津奈木町文化祭



文化の香り漂う

今年も、菊の香薫る十一月九日、十日の両日にかけて、記念すべき第十回津奈木町文化祭が開催され、会場がひっそり積み重ねてきた成果を一堂にもちより展示発表されました。B & G 体育館では、手芸、チギリ、絵、生花、寒らん、菊、小中学生の書

子供さんの絵を一生懸命見ておられました



こら一きれかばい



皆さん真剣です

作句を楽しむ

中尾の浦田和則さん

最近の作品を紹介します。今後とも頑張ってください。

【短歌】

●黒髪に蝶の舞踏げに

●振り向く白衣真珠の瞳

●久木野路にせせらぎ聞こゆ

●白梅の朝日に映えて木更月霞む

●ぼんぼりの灯に浮かぶ黒髪も

●浴衣の襟に紅いしほり

【俳句】

●夕映えにうつ蟬悲し枯梗かな

●梅雨空に願う一筆明日の光

三太郎駅伝大会に応援下さい

新春三太郎駅伝大会が、来る1月12日(日)、水俣市役所前を午前10時にスタート、田浦町農業就業改善センターをゴールとする、41キロ(一般、高校5区間、中学10区間)のコースで行われます。本町から一般A、B2チーム、中学生は、非常に残念ですが、選手不足のため単独参加ができません。(中学生は チーム参加)本町通過予定時刻は次のとおりですので応援をお願いします。

総合グラウンド前 10時25分
新川橋 10時30分
中学校前 10時35分
千代畜産碑 10時45分
なお、本町代表選手は次のとおりです。

・松永 進・川野又男・上原良一
・齊藤 誠・林田祐一・川口 香
・森山広行・松永 清・福田 必
・倉野義彦・富嶋弘行・平野新市
・藤原番二・田口伸二・諫山幸多郎
・新立芳郎・齊藤拓己・諫山吉光
・竹本昌広・林田昭広



昨年の大会より

成人おめでとう

ふる里 津奈木を

わすれないで下さい

地区名	氏 名	地区名	氏 名	地区名	氏 名	地区名	氏 名
平国	下当	平国	下当	平国	下当	平国	下当
日	添	日	添	日	添	日	添
子博	徳男	子博	徳男	子博	徳男	子博	徳男
和隆	秀秀	和隆	秀秀	和隆	秀秀	和隆	秀秀
本村	木田	本村	木田	本村	木田	本村	木田
松上	津開	松上	津開	松上	津開	松上	津開
貴順	久寿	貴順	久寿	貴順	久寿	貴順	久寿
満治	子光	満治	子光	満治	子光	満治	子光
齋坂	藤坂	齋坂	藤坂	齋坂	藤坂	齋坂	藤坂
内野	上下	内野	上下	内野	上下	内野	上下
代葉	合代	代葉	合代	代葉	合代	代葉	合代
安香	小絹	安香	小絹	安香	小絹	安香	小絹
立田	本野	立田	本野	立田	本野	立田	本野
新増	山吉	新増	山吉	新増	山吉	新増	山吉
大泊	尾	大泊	尾	大泊	尾	大泊	尾
愛文	晴浩	愛文	晴浩	愛文	晴浩	愛文	晴浩
康文	元岳	康文	元岳	康文	元岳	康文	元岳
山木	木田	山木	木田	山木	木田	山木	木田
本才	荒鶴	本才	荒鶴	本才	荒鶴	本才	荒鶴
中竹	崎	中竹	崎	中竹	崎	中竹	崎
竹染	浜	竹染	浜	竹染	浜	竹染	浜

六方踊りの復活

(平国地区老友会の手で)

鬼塚 妙子

平国小学校の勤労生産学習発表会の事前指導として、昔から伝わる「六方踊り」について児童にお話をするように依頼されました。



23年ぶりに踊られた六方踊り

人の侍を中心に十五名の奴さんが歌や三味線、太鼓に合わせて演ぜられた踊りだそう。この踊りは明治百年の記念行事に踊られたのが最後で、しばらく途絶えていた。十月四日学校に行き、六方踊りについてお話し、侍の動作とセリフ、奴の踊り、歌の文句等を紹介しました。子ども達は熱心に見ていましたが、再現への熱望で皆さんに見せることに決まり、早速、福山老友会会長を中心に村上トメヲさんの三味線、野崎キミエさんの太鼓をテープに吹き込み、練習が始まり、完全とは云えないが、大収穫祭の日に披露しました。二十三年振りの復活で、平国の皆さんが体育館を埋めつくし大盛況でした。完全な形に復元するまでには幾多の苦労があると思いますが、頑張って昔の郷土芸能を守り育て、継承して行きたいものです。



林 田 国 男

つわぶき セミナー開かれる

高令化社会の到来により、ますます生涯学習が必要になってきました。私たちは意欲的に勉強し、続けて行かなければなりません。そして国際化、情報化時代と言われる現在の事象に適切に対応できる能力を培っておきたいものです。

野に及びましたが、その中で地域の活性化についての講義の主な点を紹介することにします。鹿児島県姶良町の久保敬町長が活性化への基本理念と姶良町のユニークな取組みを自信に満ち、強調されました。(林田記)

平国小学校研究発表会

平成三年十月二十九日に、二年間の研究成果が発表されました。遠くは佐賀県はじめ、県下の百名以上の先生方、本校PTA七十名程度、来賓約二十名、合計約二百名の参加がありました。



熱心に協議されておられました

午前中は子ども達の授業の様子、さつまいも収穫の状況を見てもいい、低学年・高学年の分科会にわかれて、研究協議がなされました。昼食時間には、朝早くから本校PTAの方々が真心込めて作られた弁当を参加者に提供し、餅つき、踊りや、父母の心温まるもてなし、弁当の味の良さに参加者全員が喜び感謝感激しておられました。午後は体育館で、教師の立場や児童の立場や保護者の立場でそれぞれ発表があり、特に、児童の発表には参加者全員が興味深く聞かれ、発表が盛り上がりしました。二年間にわたって、研究を推進してきましたが、その成果の最たるものは、子ども達が自ら進んでねばり強く働き、学ぶようになり、学力の向上や基本的生活習慣の定着に結びついてきたことです。その他、思いやりの心が深まったり、生命を大切にすることが育ったり、研究の成果は沢山ありましたが、これも町当局や教育委員会の御援助と御協力があったからこそ、深く感謝しています。また、物心両面にわたって、大変お世話になりました本校PTAの方々に對しまして、厚くお礼を申し上げます。(後藤記)

同和教育研修会

後藤 善 昭



芦北町社教センターにて

十二月六日、芦北町社教センターで、地域の各団体の役職をして講演の内容は、菊池市内の小学校PTA副会長をしておられる富永行成さんが、宗教家とPTA役員の立場から同和教育研修の必要性を自分の差別体験等を通してわかりやすく話しをされました。特に、私達が生活している中には自分では気がついていない諸々の差別が沢山存在していること。中でも、まちがった考えや言い伝えによって、同和地区の人々を無意識の内に差別していること等を具体例を出して話をされました。このことから、差別が如何に不合理なものであり、人の心を傷つけ、苦しめるものであるかを痛感しました。

まず、私達は差別される側の立場に立って、人の痛みや苦しみがわかる人間になることです。そして自分の中にある差別性を自分の心に問ひかけながら、差別性をなくしていくかねばなりません。更に、部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくすために努力し、実践できる人間になることだと思います。

成人になって

私の抱負



藤 井 久 美 子

一年は、あっという間に過ぎるとよく言われますが、今思うと、この二十年間もあっという間だった様な気がします。しかし、「人生八十年」と言われる現在、私達の人生はまだこれからなんだと成人を迎え、改めて実感させられます。残された人生、様々な事が待ち受けているでしょう。

私達にはそれぞれに道があり、既にその道を歩み始めています。また、一人ひとり道が違いますが、各々が違った夢を持っていますが、その夢に向かって努力し、生きていく事は非常に大切であると思います。

嫌な事はできるだけ避けて通りたいものです。しかし、努力なしでは、自分の道は切り開かれませんが、私はこの春、短大を卒業し、就職しますが、そこでまた、幾つか夢を持っています。それを実現させるためには、上り坂や下り坂を道を通らなければならない時も多くあると思います。しかし、自分の努力次第で、自分の道に花を咲かせる事もできるかもしれません。これから先、毎日少しずつでも自分の夢に近づく様に努力を惜しまず、自分の道を切り開き、しっかりと歩み続けて行こうと思います。

私は十五歳のとき兄が成人を迎えたのを見て、初めて「成人」というのを意識し、憧れを抱いたのを覚えています。そして五年がたち、振り返って見ますとあの時と何の変化も無く、成人を迎えたという実感がまだありません。しかし、これからはそれでは通用しません。社会で生活をする中で、今ま

ではそれほど責任を追求されることのなかった私達に、これからは多くの義務や権利が与えられ、自分の行動に責任をもたなければなりません。人ばかり頼らず自分で考え、自分で行動できるよう色々な事を学んで行くことが必要だと思っています。

長い人生から見れば、もう二十歳と言うよりも、まだ二十歳の私達です。成人したばかりで、自己の責任に対する不安もありますが、また、やっと社会に一人として認められたという嬉しさや、これからの生活に対する希望も湧いていきたいと思います。

